

CI5、CONCORD へ参加して

田中里奈

弘前大学大学院医学研究科

1. 青森県がん登録の登録精度

青森県がん登録は平成元年より登録業務を開始しています。登録精度は平成 20 年罹患症例まで DCI 割合、DCO 割合ともに 50% 前後でした。平成 21 年罹患症例からは遡り調査を開始し、DCO 割合 5.1% まで改善しました。以後、DCO 割合 2%、DCI 割合 3% 程度を維持できております（図 1）。

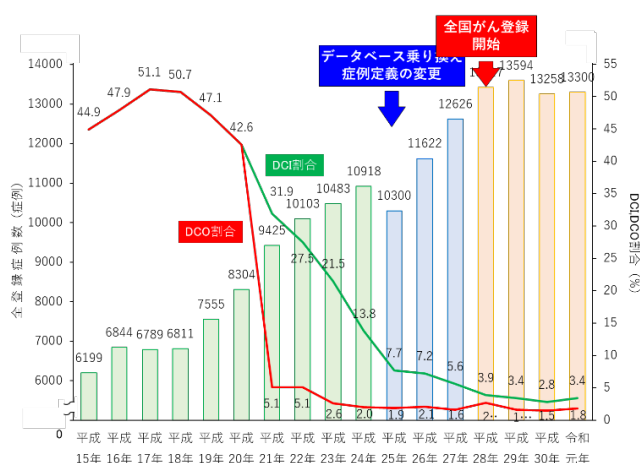


図 1 青森県がん登録の登録精度の推移

国際的にみても悪くない登録精度を維持できるようになったため、青森県のがんの現状を国際比較するために 5 大陸のがん罹患 (Cancer Incidence in 5 Continents、以下 CI5) および CONCORD study へ参加しましたので、その際に苦労した点についてご報告いたします。

2. CI5 への提出に向けて

青森県がん登録として CI5 に参加するにあたり、最も大変だったのが青森県への説明でした。青森県がん登録は登録業務を青

森県から弘前大学へ委託しています。そのため、まずは青森県側へ CI5 に参加する許可を得る必要がありました。また、CI5 へ参加するには IACR (国際がん登録協議会) へ青森県が会員として加入しなければなりません。すると、県側からいくつかの質問がありました。「CI5 への参加は本当に必要なことか?」「弘前大学への委託の中でできないのか?」「会費を県が負担してまで得られるメリットはあるのか?」「想定される成果について説明してほしい」「結果があとで公開されるのであれば、わざわざ参加しなくても、その結果と本県の罹患率を比較するだけでいいのではないか」といった内容です。これらの質問に対してお答えした内容は以下の通りです。「CI5 に参加する最大のメリットは、青森県の罹患状況を国際比較できることにあります。がん登録情報は単独では役に立たず、比較することによって初めて、がん対策の課題 (一次予防、二次予防、三次予防のどこに問題があるか) が明らかになる。比較するためには同じ定義、ルールで数値を算出する必要がある。CI5 の罹患率は IARC (国際がん研究機関) が行っているため、CI5 に参加しなければ、全く同じ水準での国際比較はできず、参考値となってしまふ。」ここまでご説明したら、青森県からご了承いただけました。

次に大変だったのは罹患データの準備です。罹患データは IACR が提供している Call for Data (全 15 頁) を基に作成します。英語で書かれているものなので、まずは日本語訳し、内容を理解した上で作成する必要がありました。しかし、広島県の放射線影響研究所の杉山先生、小田様、原上様が「CI5 提出に向けての準備」と題して参加登録室

に向けての情報提供を Web で実施してくださいました。さらに、放射線影響研究所の皆様が作成した資料（提出データを作成するためのデータデザイン、都道府県データベースからの変換定義、IARC Tools マニュアル）をご提供いただきました。これらの資料により、データの作成はあまり難しくはなく、非常にスムーズに完了することができました。

3. CONCORD への提出に向けて

青森県がん登録として CONCORD に参加するにあたり、最も大変だったのは都道府県データベースからデータを出力することができないことでした。ICD-0-3.1 から 3.2 への移行にあたりデータベース内で不具合が生じたため、2023 年 1 月 20 日に研究利用目的データの提供が中止されました。その後、2019 年罹患症例までについてはデータが再構築され、2023 年 11 月 24 日に研究利用目的データの提供が再開されました。このデータを出力できない 10 か月の間に、CONCORD への提出締め切りが過ぎてしまい、提出期限を延長していただく必要がありました。

長らくデータを利用できず、不安と焦りが募る日々でしたが、その間にできることをしていました。CONCORD は研究という側面が強いので、青森県では、県ではなく弘前大学として「がん登録等の推進に関する法律」第 21 条第 9 項に基づきデータ利用申請をしました。その際、データの共同利用者として CONCORD 側からもデータ利用の誓約書に直筆サインが必要でしたが、放射線影響研究所の杉山先生、岩見様が各県からの誓約書を取りまとめてロンドンへ発送、返ってきた誓約書を各県へ返送という作業をしてく

ださいました。

また、JACR の国際交流委員会、教育研修委員会の先生方が参加登録室への説明会の開催や、提出データを作成するための変換スクリプトを作成し、ご提供いただきました。変換スクリプトは、CONCORD 側が提供しているプロトコル（全 74 頁）を基に、R 用と Stata 用の 2 種類で作成してくださいました。このスクリプトがあったからこそ、データ提供が再開してから提出まで、非常に迅速に完了できたのだと思います。

4. さいごに

今回、CI5、CONCORD へ参加し、無事にデータ提出までを終えることができたのは、ご尽力してくださった皆様のお陰です。心より感謝申し上げます。

- ・埼玉県立大学 大木いずみ先生
- ・国立がん研究センター 松田智大先生
- ・放射線影響研究所 杉山裕美先生
- ・大阪国際がんセンター 中田佳世先生
- ・放射線影響研究所疫学部の皆様
- ・放射線影響研究所腫瘍登録室（広島県がん登録室）の皆様
- ・大阪国際がんセンターの先生方
- ・JACR 国際交流委員会の先生方
- ・JACR 教育研修委員会の先生方
- ・参加登録室の皆様